
2017年度第2四半期決算説明会

2017年11月2日
Hitz日立造船株式会社

目次

1. 2017年度第2四半期連結決算概況
2. 2017年度業績見通し
3. セグメント別詳細
4. 中期経営計画「*Change & Growth*」の進捗状況
5. 補足資料（小セグメント）

1. 2017年度第2四半期連結決算概況

- **環境・プラント部門を中心に受注高が増加したこと**
- **環境海外EPCの工事採算が悪化したこと**
- **機械部門が黒字転換したこと**

2017年度2Q決算 実績概況

(億円)

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
	(利益率)	(利益率)	(利益率)
受注高	1,974	2,231	257
売上高	1,711	1,623	▲88
営業利益	(▲0.1%) ▲2	(▲2.1%) ▲33	(▲2.0%) ▲31
経常利益	(▲0.5%) ▲8	(▲3.1%) ▲51	(▲2.6%) ▲43
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(▲1.2%) ▲20	(▲3.3%) ▲54	(▲2.1%) ▲34

2017年度2Q決算 受注高 セグメント別

(億円)

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
環境・プラント	1,244	1,580	336
機械	506	441	▲65
インフラ	121	158	37
その他	103	52	▲51
計	1,974	2,231	257

2017年度2Q決算 売上高 セグメント別

(億円)

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
環境・プラント	1,089	1,010	▲79
機械	446	448	2
インフラ	124	114	▲10
その他	52	51	▲1
計	1,711	1,623	▲88

2017年度2Q決算 営業利益 セグメント別

(億円)

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
環境・プラント	4	▲37	▲41
機械	▲4	3	7
インフラ	▲3	0	3
その他	1	1	0
計	▲2	▲33	▲31

		(億円)	
2016年度2Q 営業利益		▲ 2	
増減内訳	・売上高減 (▲88億円)	▲12	▲ 31
	・一般管理費の増加	▲15	
	・環境プラント部門の個別工事 のコスト増加	▲20	
	・その他 (機械部門の収益改善等)	+16	
	2017年度2Q 営業利益		

2017年度2Q決算 営業外損益・特別損益内訳

(億円)

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
金利負担額	▲2	▲3	▲1
持分法による投資損益	0	0	0
その他営業外損益	▲4	▲15	▲11
営業外損益 計	▲6	▲18	▲12

	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
特別利益 固定資産売却益	14	-	▲14
特別損失 海外事業関連損失	▲12	-	12
特別損益 計	2	-	▲2

2017年度2Q決算 連結キャッシュフロー計算書・有利子負債

(億円)

		2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計	比較
キャッシュ フロー	営業活動によるキャッシュフロー	179	87	▲92
	投資活動によるキャッシュフロー	14	▲41	▲55
	財務活動によるキャッシュフロー	▲134	▲146	▲12
	現金・現金同等物の増減額	(注1) 50	(注1) ▲100	▲150
	現金・現金同等物の期首残高	496	508	12
	現金・現金同等物の期末残高	546	408	▲138
		2017年 3月末	2017年 9月末	比較
有利子 負債	借入金	(注2) 992	871	▲121
	社債	100	100	0
	合計	1,092	971	▲121

(注1)為替換算差額含む (2016年度2Q:▲9, 2017年度2Q:0)

(注2)リース債務を含む

2. 2017年度業績見通し

2017年度見通し 概況

(億円)

	2016年度	2017年度 見通し		比較	
	実績	2017年 5月公表	今回	対前年度	対5月公表
	(利益率)	(利益率)	(利益率)	(利益率)	(利益率)
受注高	3,989	4,000	4,000	11	0
売上高	3,993	3,600	3,600	▲393	0
営業利益	(3.7%) 149	(3.5%) 125	(3.5%) 125	(▲0.2%) ▲24	(0.0%) 0
経常利益	(2.8%) 112	(2.8%) 100	(2.8%) 100	(0.0%) ▲12	(0.0%) 0
親会社株主に帰属 する当期純利益	(1.5%) 58	(1.8%) 65	(1.8%) 65	(0.3%) 7	(0.0%) 0

2017年度見通し 受注高 セグメント別

(億円)

	2016年度	2017年度 見通し		比較	
	実績	2017年 5月公表	今回	対前年度	対5月公表
環境・プラント	2,406	2,550	2,550	144	0
機械	1,069	1,000	1,000	▲69	0
インフラ	332	350	350	18	0
その他	182	100	100	▲82	0
計	3,989	4,000	4,000	11	0

2017年度見通し 売上高 セグメント別

(億円)

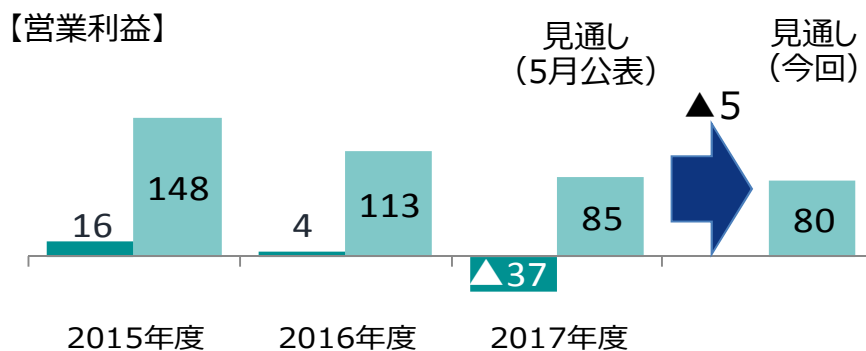
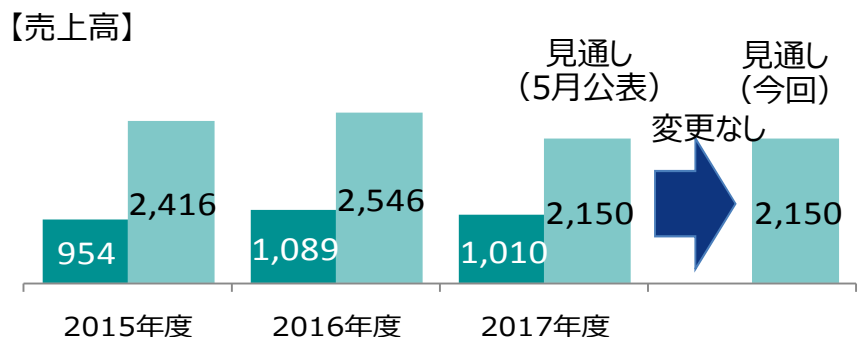
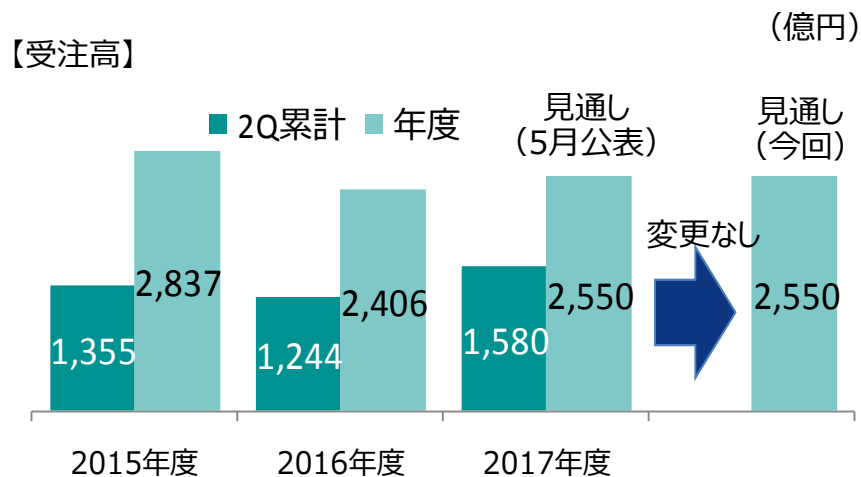
	2016年度	2017年度 見通し		比較	
	実績	2017年 5月公表	今回	対前年度	対5月公表
環境・プラント	2,546	2,150	2,150	▲396	0
機械	1,037	1,000	1,000	▲37	0
インフラ	292	300	300	8	0
その他	118	150	150	32	0
計	3,993	3,600	3,600	▲393	0

2017年度見通し 営業利益 セグメント別

(億円)

	2016年度	2017年度 見通し		比較	
	実績	2017年 5月公表	今回	対前年度	対5月公表
環境・プラント	113	85	80	▲33	▲5
機械	22	25	30	8	5
インフラ	10	10	10	0	0
その他	4	5	5	1	0
計	149	125	125	▲24	0

3. セグメント別詳細



受注高

■ 2Q実績 (前年2Q比)

1,580億円 (+336億円)

- ・国内継続的事業で長期運営・基幹改良案件を複数受注

- ・Inova社がトルコ向け案件を受注

■ 年間見通し (5月公表比)

2,550億円 (±0億円)

- ・Inova社が英国向け案件受注を見込む

- ・国内ごみ焼却炉EPC・長期運営の受注を見込む

売上高

■ 2Q実績 (前年2Q比)

1,010億円 (▲79億円)

- ・カタール向け海水淡水化プラント建設工事の出来高減少

■ 年間見通し (5月公表比)

2,150億円 (±0億円)

営業利益

■ 2Q実績 (前年2Q比)

▲37億円 (▲41億円)

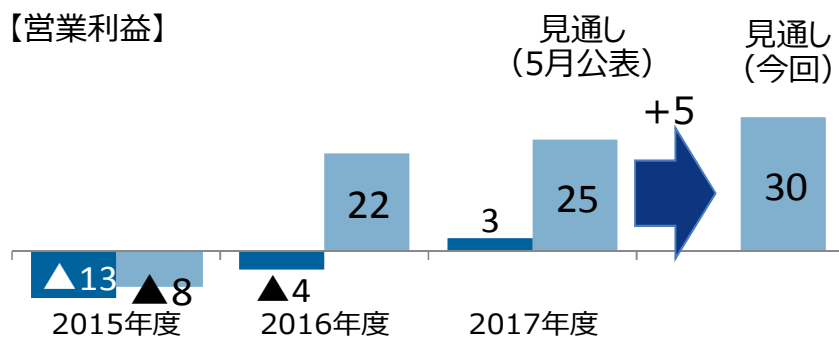
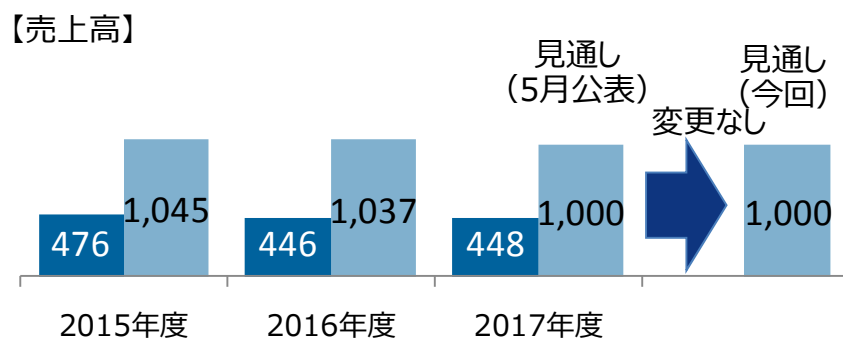
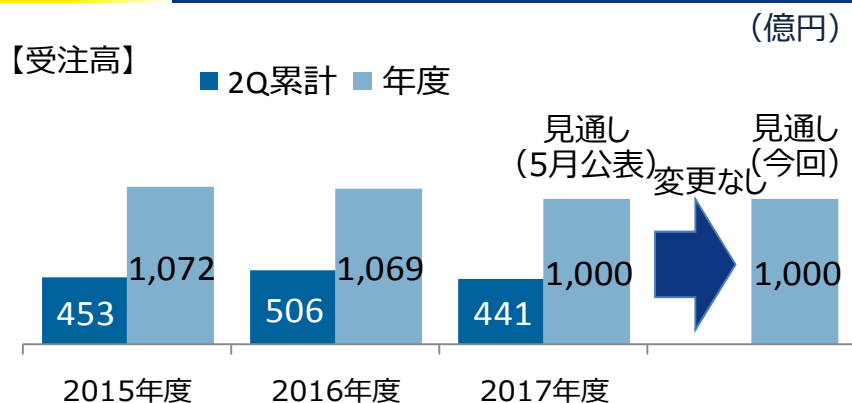
- ・売上高減少の影響

- ・EPCの個別工事でコスト増加

■ 年間見通し (5月公表比)

80億円 (▲5億円)

- ・EPCの個別工事でコスト増加



受注高

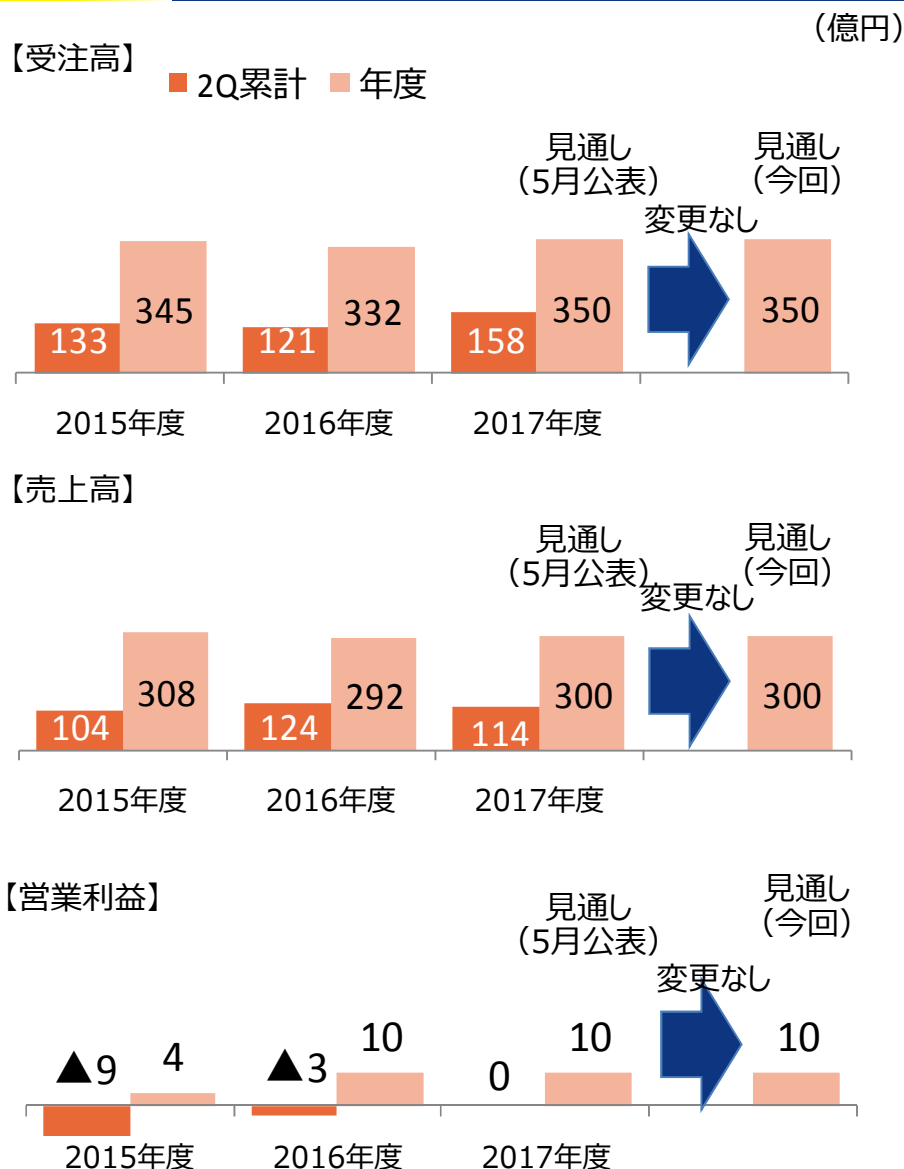
- 2Q実績 (前年2Q比)
441億円 (▲65億円)
・船用原動機とプロセスの減少
- 年間見通し (5月公表比)
1,000億円 (±0億円)
・プロセスの減少を精密機械がカバー

売上高

- 2Q実績 (前年2Q比)
448億円 (+2億円)
・精密機械の増加
・船用原動機の減少
- 年間見通し (5月公表比)
1,000億円 (±0億円)
・プロセスの減少を精密機械がカバー

営業利益

- 2Q実績 (前年2Q比)
3億円 (+7億円)
・精密機械の収益改善
・プレス機の採算悪化や船用原動機の減収影響
- 年間見通し (5月公表比)
30億円 (+5億円)
・精密機械の収益改善
・プレスは減少



受注高

- 2Q実績 (前年2Q比)
158億円 (+37億円)
・橋梁の大口案件受注
- 年間見通し (5月公表比)
350億円 (±0億円)

売上高

- 2Q実績 (前年2Q比)
114億円 (▲10億円)
・前年同期は海洋の大口工事が進捗
- 年間見通し (5月公表比)
300億円 (±0億円)
・下半期に橋梁を中心に売上増加

営業利益

- 2Q実績 (前年2Q比)
0億円 (+3億円)
・個別工事の採算改善
- 年間見通し (5月公表比)
10億円 (±0億円)
・下半期の売上増加による収益の改善を見込む

4. 中期経営計画「Change & Growth」の進捗状況

基本戦略(1)

事業基盤の再構築と
生産性向上

- 1 事業領域の拡大
- 2 ICT技術の活用
- 3 リスク管理体制の強化
- 4 高収益化策の具体化と推進
- 5 財務体質の強化と成長投資余力の拡充

基本戦略(2)

グループ総合力の発揮

- 1 事業クラスターの形成によるシナジー発揮
- 2 連結経営管理の重視
- 3 ローテーションによる人材開発

基本戦略(3)

ポートフォリオマネジメントの
推進

- 1 ポートフォリオによる事業の位置づけ明確化
- 2 伸長事業や新事業への経営資源の優先配分
- 3 低迷する機種は再生検討して見極め

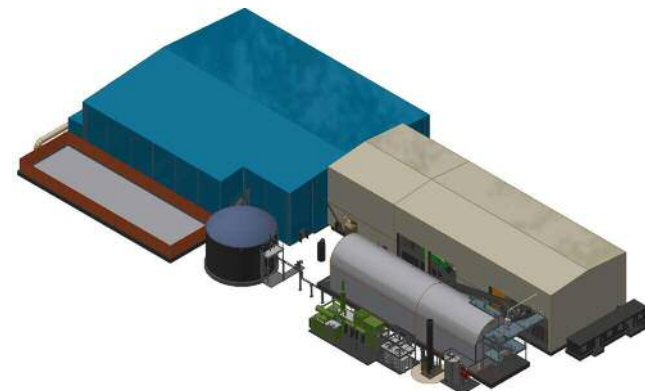
(1) バイオガス発電事業で自社事業開始 (事業企画・事業投資 領域への進出)

1 秋田バイオメタン発電所



- 事業内容 : メタン発酵ガス化バイオマス発電事業
- 原料 : 事業系食品廃棄物
- 採用技術 : 湿式メタン発酵システム
- 年間発電量 : 約523万kWh
- 運営開始 : 2017年8月末
- 総事業費 : 約30億円
- 主要株主 : 当社グループ (一社) グリーンファイナンス推進機構

2 米国カリフォルニア州バイオガス発電所



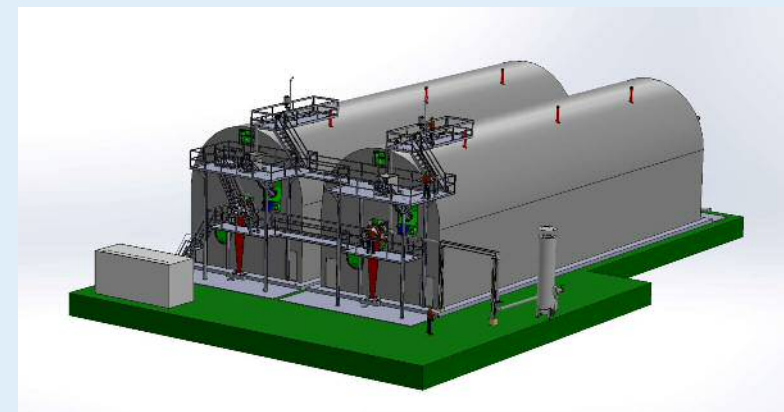
- 事業内容 : メタン発酵ガス化バイオマス発電事業
- 原料 : 植物ごみ、食品残渣
- 採用技術 : 乾式メタン発酵システム (Kompogas®)
- 年間発電量 : 約620万kWh
- 運営開始 : 2018年7月 (予定)
- 総事業費 : 約22百万米ドル
- 主要株主 : 当社グループ ※JBIC融資制度利用

3 フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、中国でメタン発酵関連設備を受注（Inova社）

- バイオガス精製装置 4件 受注（フランス）
- バイオガス精製装置 1件 受注（ドイツ）
- メタン発酵槽 2基 受注（ギリシャ）
- メタン発酵槽 2基 受注（イタリア）
- メタン発酵槽 2基 受注（中国）



バイオガス精製装置



メタン発酵槽

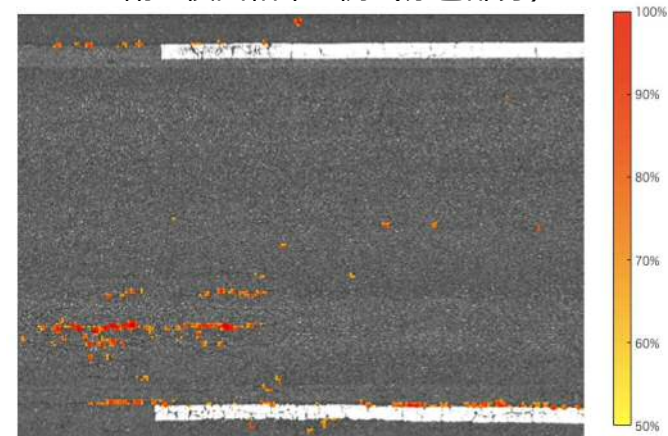
(2) 路面ひび割れ検出システムを共同開発 (AOM事業の強化)

- 阪神高速の路面性状測定車「ドクターパート」が撮影する路面画像に対し、自動でひび割れ検出を行う画像認識技術 (FCM識別器) を確立。
- 2017年3月から阪神高速技術 (株) が本システムを仮運用し、ひび割れ検出作業時間を約1/5まで削減。
- 今後も阪神高速技術との共同研究を継続し、補修路線の順番付け業務に活用するシステムを構築予定。
- 将来的には補修工事を含むエンジニアリング・ビジネスへの発展を企図。

ドクターパートによる撮影状況

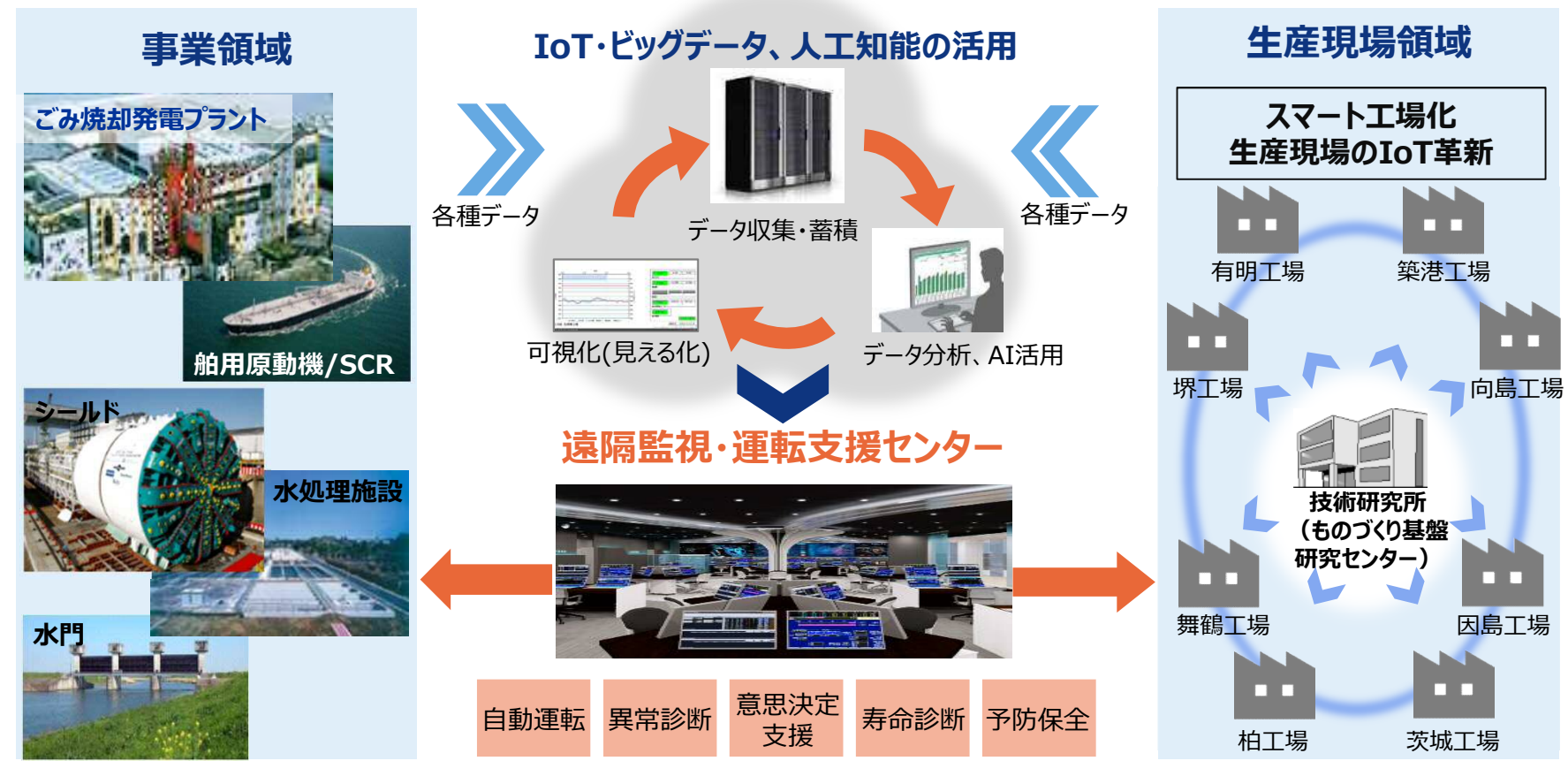


ひび割れ検出結果の例 (赤色部分)



遠隔監視・運転支援センターをリニューアル（2018年秋運営開始予定）

- 生産性の向上
 - ・ロボットやICTを活用した生産性向上
 - ・ICT活用による設計標準化
- AOM事業の拡大・向上
 - ・遠隔監視サービスの横展開（シールド、船用原動機など）
 - ・ビッグデータを活用したごみ焼却発電施設の電気出力安定化など



(1) 船用SCRシステムの受注本格化 (累計12台受注)

SCR初受注

注文主：Dalian Marine Diesel Co., Ltd.
供給機器：船用高圧SCRシステム×2基
納期：2017年10月, 11月

SCR + 主機 パッケージ初受注

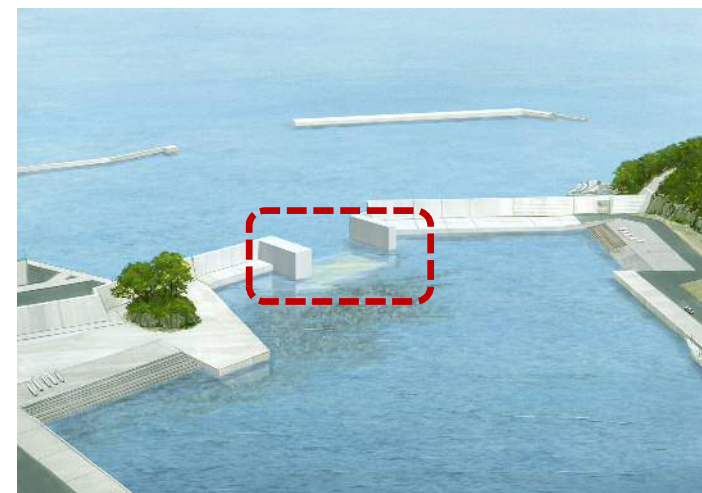
注文主：住友重機械マリンエンジニアリング(株)
供給機器：船用エンジン(6G60ME-C9.5)および
船用高圧SCRシステム×1基
納期：2018年7月

注文主：STX heavy Industries Co., Ltd.
供給機器：船用高圧SCRシステム×2基
納期：2017年10月, 11月

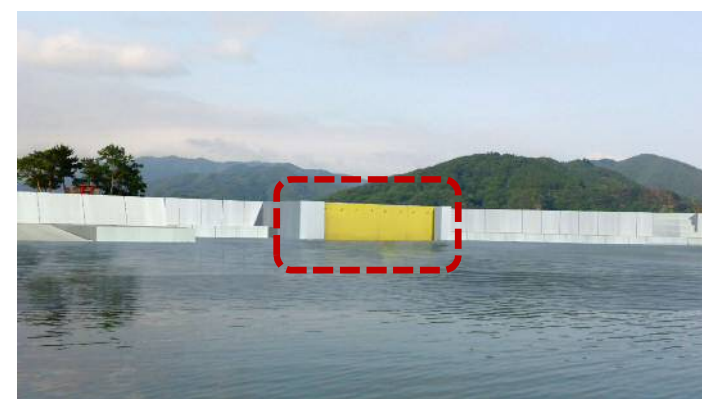
船用SCR(Selective Catalytic Reduction)システム：船用エンジンから排出されるNOxを触媒で除去する装置

(2) 海底設置型フラップゲート式水門を初受注

- 発注者 : 岩手県
- 納入機種 : 海底設置型フラップゲート式水門
- 建設地 : 岩手県大船渡市末崎町地先
(水深約5mの海底)
- 完工 : 2020年3月
- 製作工場 : 堺工場
- 特徴 :
 - ① 平常時は船舶航行を阻害せず、景観への影響も小さい
 - ② 自然の力を利用して起立するため、建設・ランニングコストとも抑制可能
- 陸上設置型フラップゲート (neo RiSe®) は既に89基の実績



完成予想図：扉体倒伏時 (岩手県提供)



完成予想図：扉体起立時 (岩手県提供)

(3) 業務・産業用SOFC (固体酸化物形燃料電池) の実証試験を開始

➤ 特長：

- ①省エネルギー (小型分散型電源で高いエネルギー効率)
- ②高環境性 (クリーン、低騒音、低振動、CO2排出量削減)

- 研究形態： NEDO助成による (地独) 大阪産業技術研究所との共同研究
- 実証実験期間： 2017年6月23日～2018年3月末 (予定) (4,000h以上)

➤ 今後の展開：

- ①20～数百kWまでの業務・産業用電源として、食品スーパー、コンビニ、オフィスビル、集合住宅等を対象にして、2018年度に1号機受注を目指す
- ②本装置の燃料多様性を生かし、バイオ燃料や水素適用も視野に入れて事業化を推進

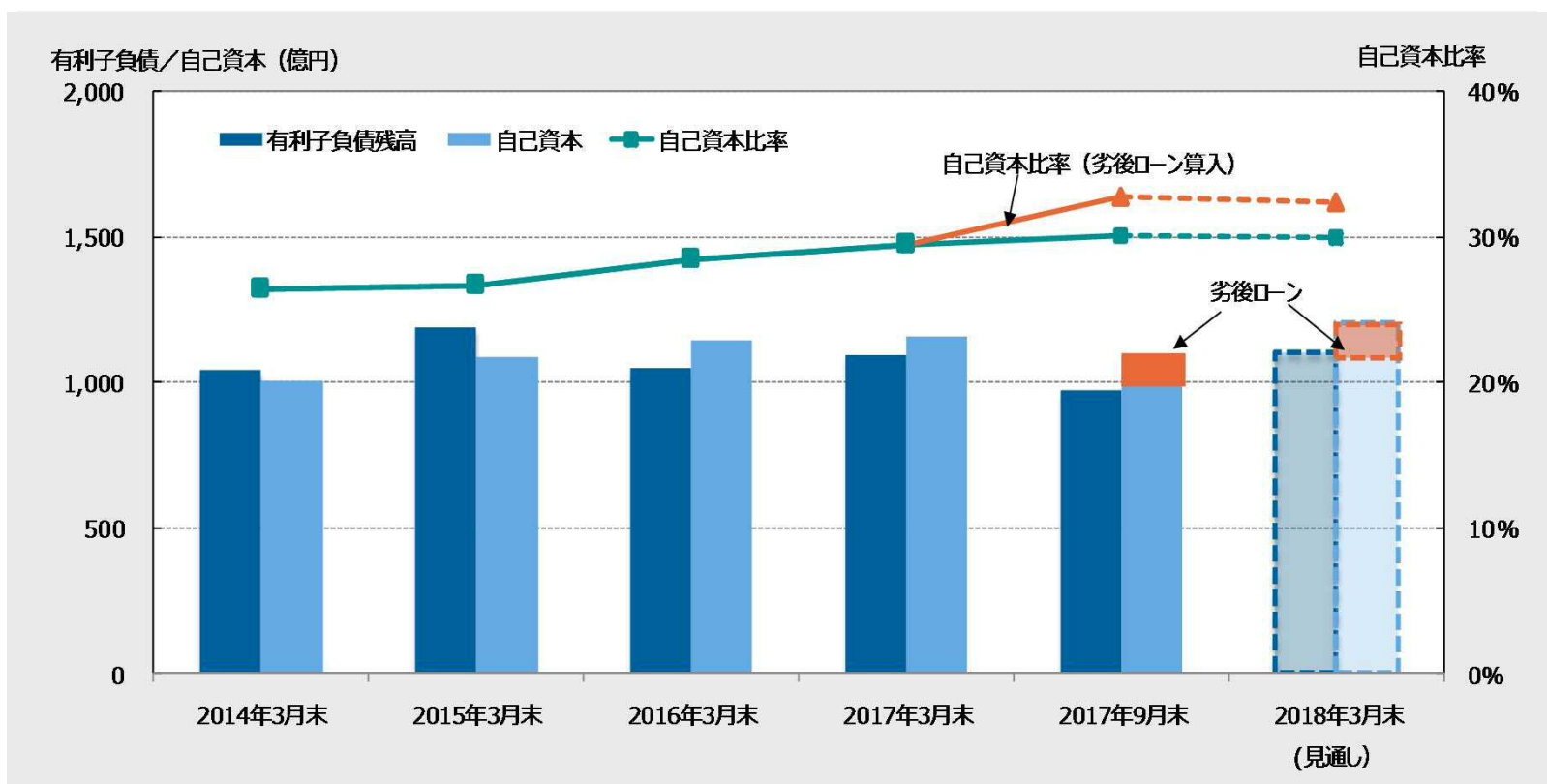


SOFC

日立造船の業務・産業用SOFCの推進イメージ

(1) 劣後ローン200億円の実行 → 格付向上 (JCR) BBB→BBB+
(資本性50%)

(2) 2017年9月末 自己資本比率 : 30.1% (劣後ローン算入ベース : 32.8%)



(億円)

	Change & Growth (計画)				Change & Growth (見通し)			
	2017年度	2018年度	2019年度	3年合計	2017年度 今回	2018年度	2019年度	3年合計
受注高	4,000	4,300	4,600	12,900	4,000	4,300	4,600	12,900
売上高	3,600	4,000	4,300	11,900	3,600	4,000	4,300	11,900
営業利益 (営業利益率)	125 (3.5%)	165 (4.1%)	205 (4.8%)	495 (4.2%)	125 (3.5%)	165 (4.1%)	205 (4.8%)	495 (4.2%)
経常利益 (経常利益率)	100 (2.8%)	140 (3.5%)	180 (4.2%)	420 (3.5%)	100 (2.8%)	140 (3.5%)	180 (4.2%)	420 (3.5%)
当期純利益	65	80	100	245	65	80	100	245
有利子負債 残高	1,100	1,050	1,000	—	1,100	1,050	1,000	—
自己資本 比率 (劣後口算入含み)	30.0% (32.4%)	30.5% (32.7%)	31.0% (33.3%)	—	30.0% (32.4%)	30.5% (32.7%)	31.0% (33.3%)	—
R O E	5.5%	6.5%	7.7%	—	5.5%	6.5%	7.7%	—

5. 補足資料（小セグメント）

計数計画 (環境・プラント部門 小セグメント 2Q累計)

(億円)

		2014年度 2Q累計	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計
受注高	EPC(新規建設)	1,268	491	615	595
	継続的事業	803	864	629	985
	計	2,071	1,355	1,244	1,580
売上高	EPC(新規建設)	473	560	617	505
	継続的事業	366	394	472	505
	計	839	954	1,089	1,010
営業利益	EPC(新規建設)	▲18	7	▲19	▲49
	継続的事業	6	9	23	12
	小計	▲12	16	4	▲37

計数計画（環境・プラント部門 小セグメント 年間）

（億円）

		2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 見通し 5月公表	2017年度 見通し (今回)
受注高	EPC(新規建設)	1,760	1,273	1,170	1,250	1,060
	継続的事業	1,390	1,564	1,236	1,300	1,490
	計	3,150	2,837	2,406	2,550	2,550
売上高	EPC(新規建設)	1,162	1,226	1,300	940	910
	継続的事業	1,098	1,190	1,246	1,210	1,240
	計	2,260	2,416	2,546	2,150	2,150
営業利益	EPC(新規建設)	13	5	▲49	▲36	▲56
	継続的事業	123	143	162	121	136
	小計	136	148	113	85	80

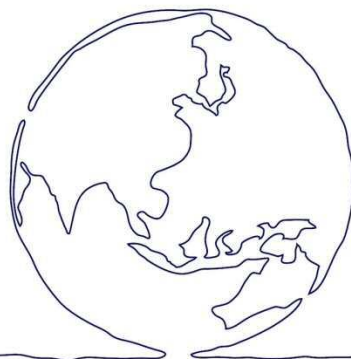
計数計画（機械部門 小セグメント 2Q累計）

(億円)

		2014年度 2Q累計	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q累計	2017年度 2Q累計
受注高	舶用原動機	86	107	122	90
	プレス	113	120	130	131
	プロセス	40	57	46	21
	精密機械	202	91	128	124
	その他	68	78	80	75
	計	509	453	506	441
売上高	舶用原動機	106	127	110	75
	プレス	122	112	118	115
	プロセス	86	65	69	73
	精密機械	87	94	80	120
	その他	56	78	69	65
	計	457	476	446	448
営業利益	舶用原動機	▲16	▲13	▲2	▲5
	プレス	14	15	14	5
	プロセス	▲2	0	▲7	▲1
	精密機械	▲5	▲7	▲5	7
	その他	1	▲8	▲4	▲3
	計	▲8	▲13	▲4	3

計数計画（機械部門 小セグメント 年間）

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2017年度	(億円)
		実績	実績	実績	見通し 5月公表	見通し 今回	
受注高	船用原動機	233	354	208	175	175	
	プレス	232	229	236	200	200	
	プロセス	127	169	183	200	190	
	精密機械	297	171	287	270	280	
	その他	117	149	155	155	155	
	計	1,006	1,072	1,069	1,000	1,000	
売上高	船用原動機	214	254	255	210	210	
	プレス	239	234	241	215	215	
	プロセス	220	160	164	170	140	
	精密機械	253	230	218	250	280	
	その他	118	167	159	155	155	
	計	1,044	1,045	1,037	1,000	1,000	
営業利益	船用原動機	▲35	▲26	▲4	0	0	
	プレス	28	27	23	14	12	
	プロセス	11	9	0	2	2	
	精密機械	4	▲10	2	6	13	
	その他	0	▲8	1	3	3	
	計	8	▲8	22	25	30	



地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

Hitz

Hitachi Zosen

日立造船株式会社

<http://www.hitachizosen.co.jp/>